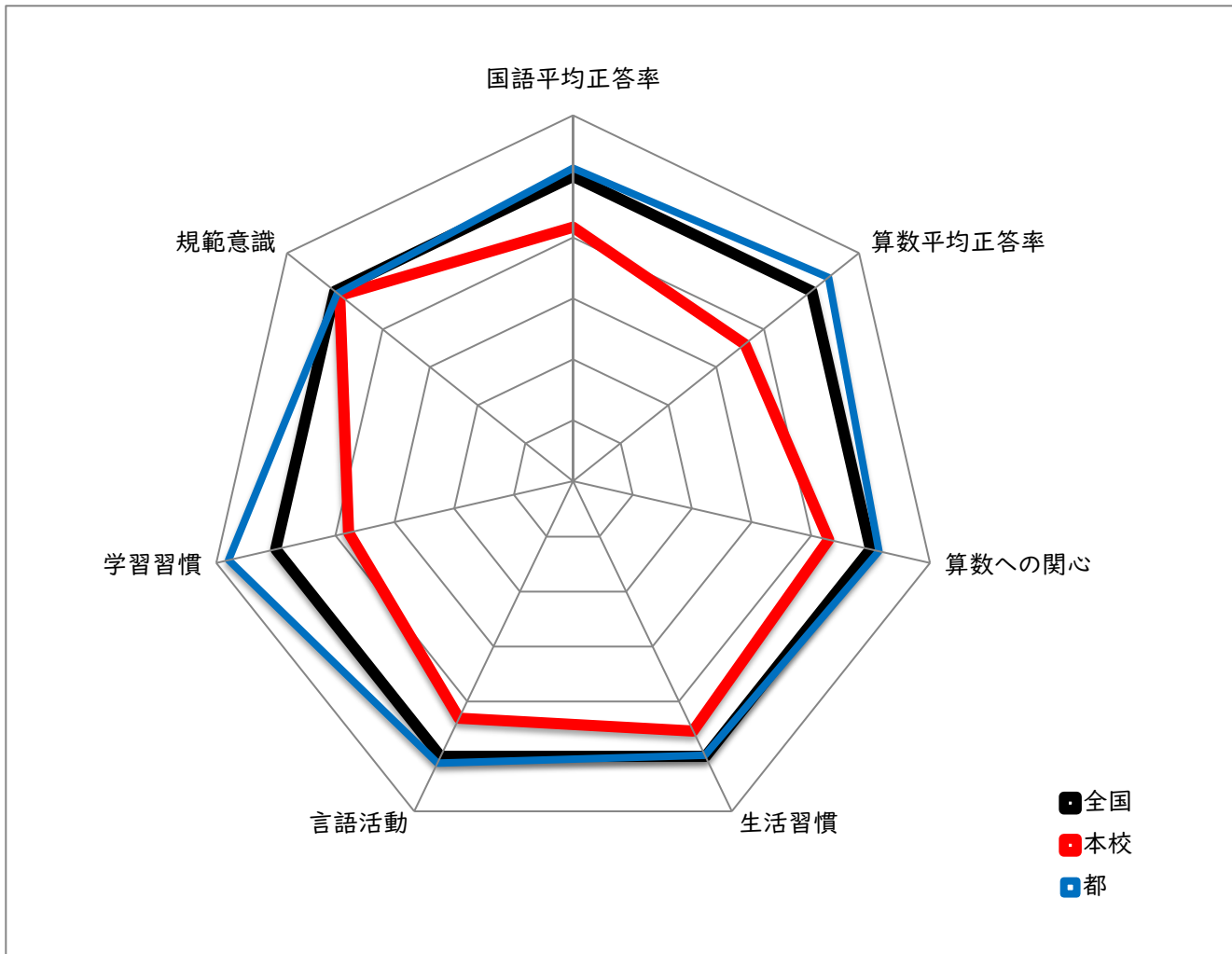


令和5年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表

江戸川区立大杉第二小学校

本調査は令和5年5月に全国の第6学年児童を対象に行った学力調査です。各教科別に正答率・到達率をグラフに表しました。太線が全国平均の正答率・到達率を表します。中太線が本校の正答率・到達率を表します。



《現状把握》

「国語平均正答率」「算数平均正答率」ともに全国平均、東京都平均と比較し、下回ることになった。また、それぞれの教科への関心も下回っている。さらに、学習習慣の結果も全国平均を下回っている。

《授業改善のポイント》

児童の学習の定着度を高めるために、国語では漢字・音読等の基礎学力向上のための時間を確保するとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣化を促し、確実に定着できるようにする。算数では、「学力格差解消事業推進校」として3本の柱である「授業の充実」「基礎学力向上のための計画的な補習」「タブレット端末を活用した授業実践」を通し、基礎学力の定着及び数学的な思考力を高められるように指導する。

国語と算数ともに上記の基礎・基本の定着と併せて、問題解決的な授業展開をより一層重視することにほか、授業の導入段階での児童の学習意欲を高める手だてや工夫を取り入れていく。

《家庭・地域への働きかけ》

「補習」で活用している補習ファイル及び達成度表をもとに学習の定着度等について保護者と共有・連携しながら学力の定着を図れるようにする。また、ベーシックドリル・全国学力調査の結果を面談等の機会を活用し、保護者に伝え、課題を明らかにすることで家庭学習への啓発を行い、児童の家庭学習の習慣が定着するようにする。

《チャートの特徴》

<全国と本校の平均正答率>

国語 全国 67.2% 本校 56% 東京都 69%

算数 全国 62.5% 本校 45% 東京都 67%

「国語平均正答率」、「算数平均正答率」について、全国平均、東京都平均を下回った。一方で、「規範意識」では全国平均とほぼ同数値となった。